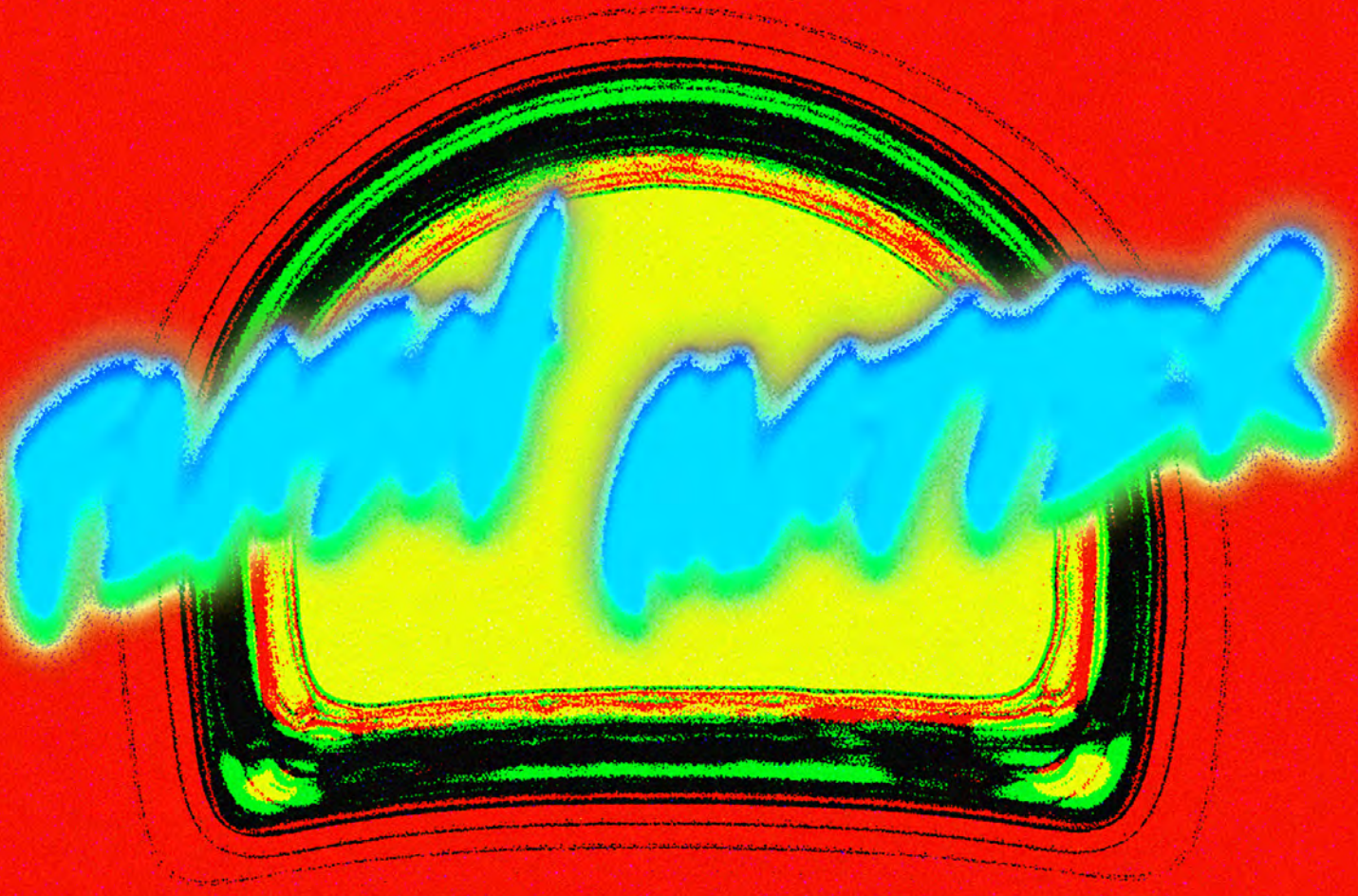




FLASH MATTER

SOSHI MATSUNOBE
TAKURO TAMAYAMA

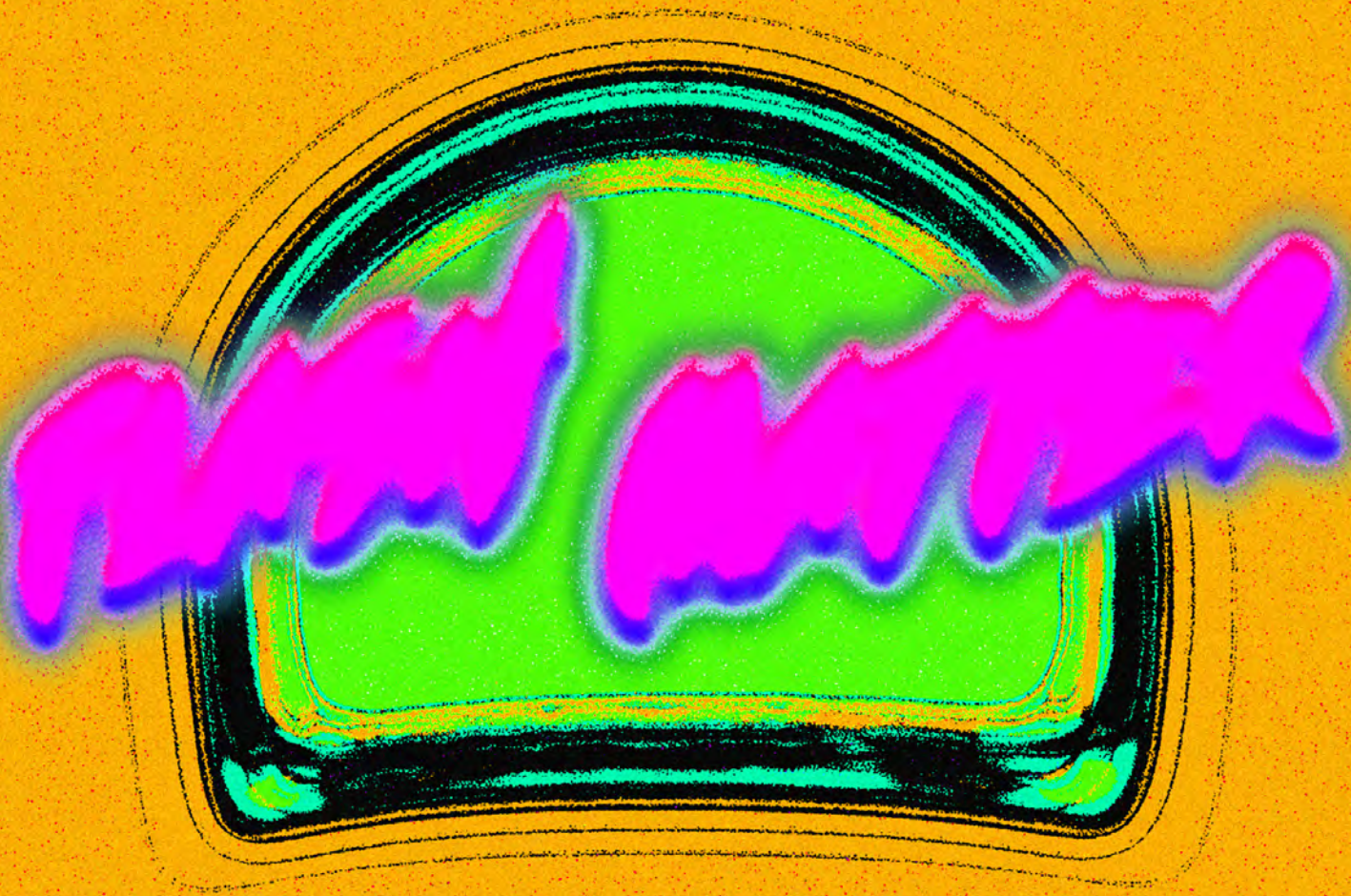
Gallery P A R C
GRAND MARBLE



FLASH MATTER

SOSHI MATSUNOBE
TAKURO TAMAYAMA

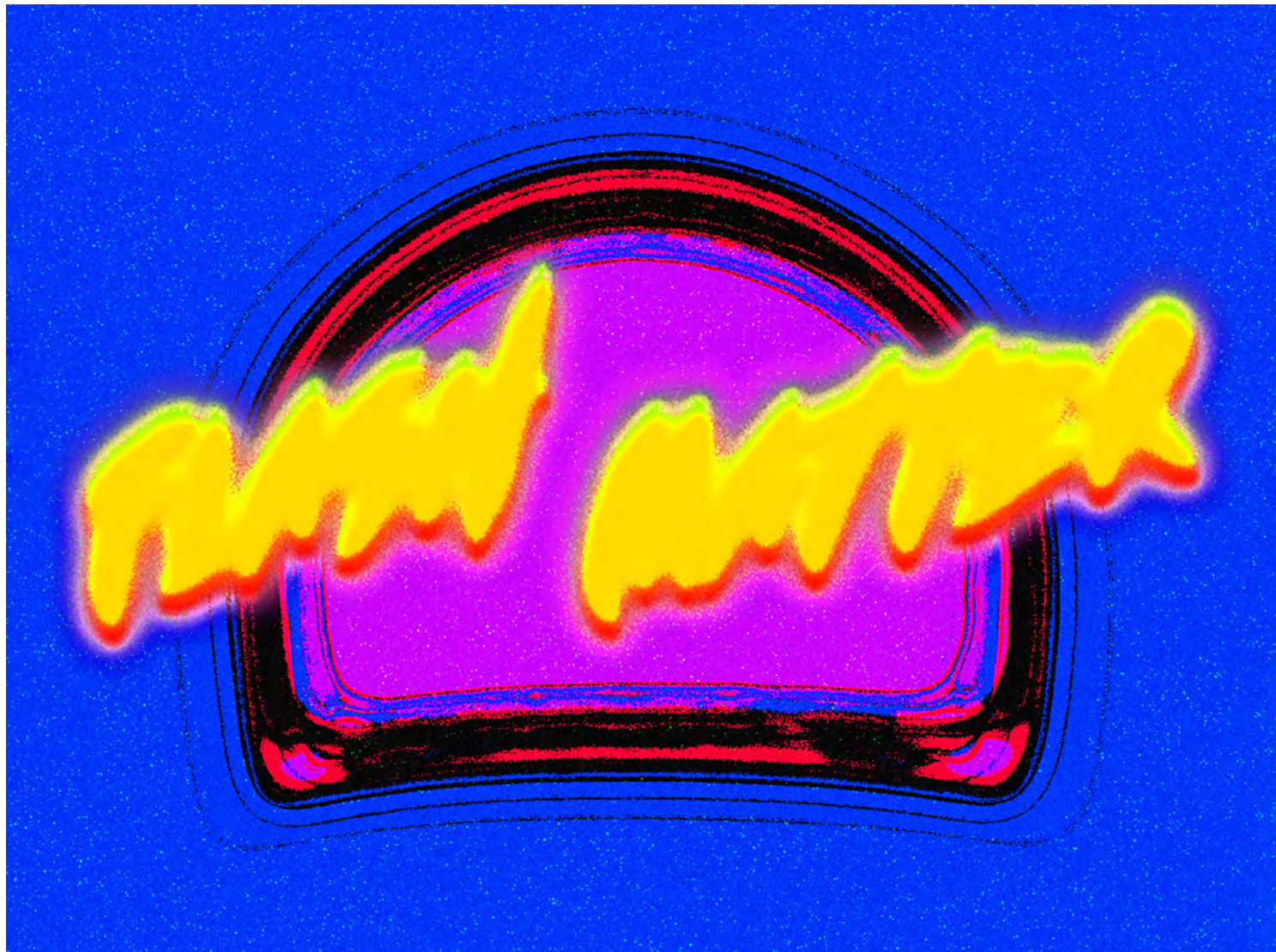
Gallery P A R C
GRAND MARBLE



FLASH MATTER

SOSHI MATSUNOBE
TAKURO TAMAYAMA

Gallery P A R C
GRAND MARBLE



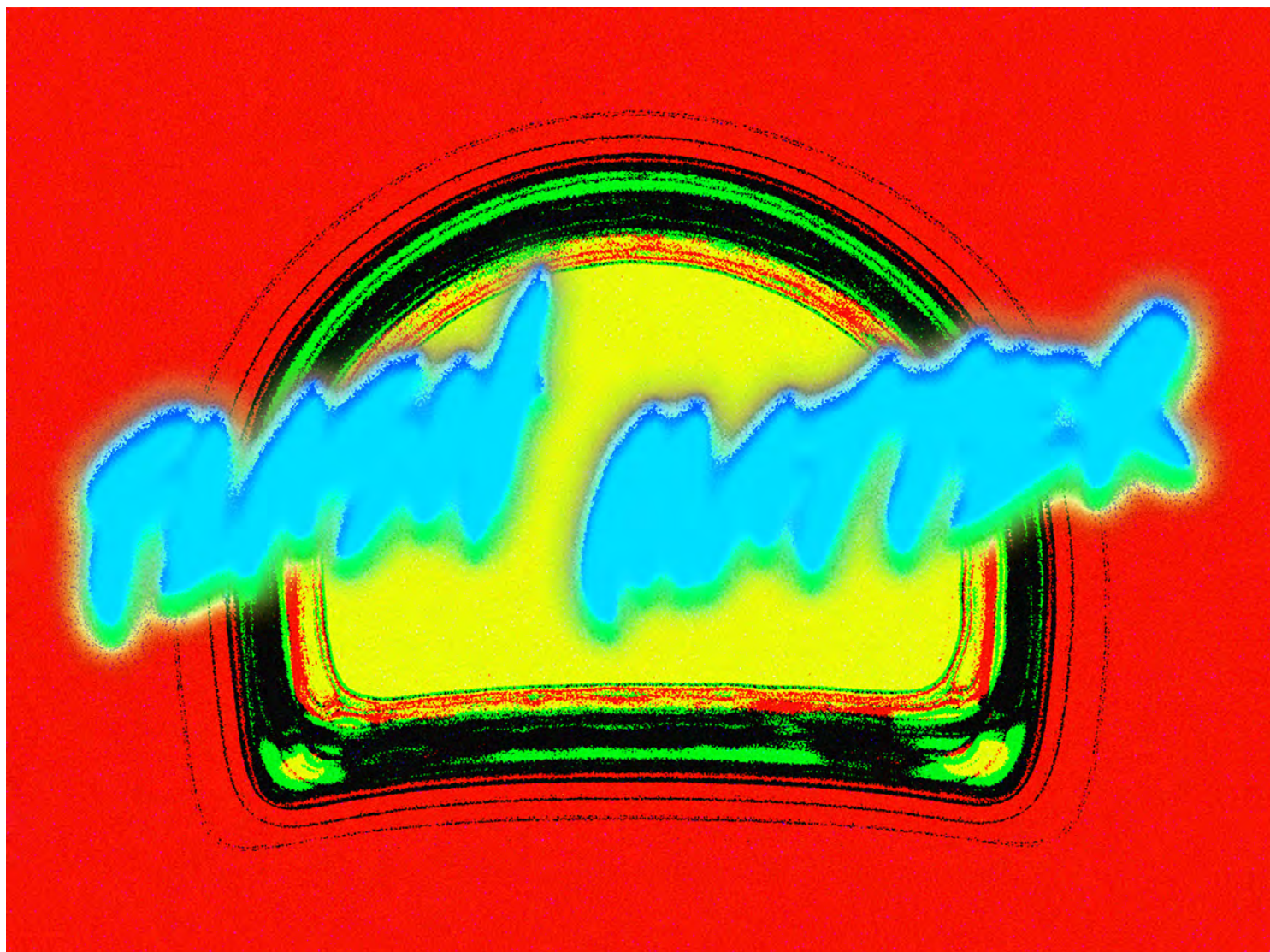
Gallery PARC[グランマブル ギャラリー・パルク]では2019年3月1日(金)から3月17日(日)まで、玉山拓郎・松延総司による「FLASH MATTER」を開催いたします。

2013年に愛知県立芸術大学美術学部油画専攻を卒業、2015年に東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野を修了した玉山拓郎(たまやま・たくろう/1990年岐阜県生まれ)は、鮮烈な色彩を持った壁や椅子、照明器具やベッドなどの日常品を部屋のような空間に配置することで、そこに色彩のコンポジションを生成するインスタレーションを発表してきました。玉山によるインスタレーションは現実・虚構、写真性(あるいは映像性):絵画的な要素が混ぜ込まれ、近年ではそこに映像作品を加えることで時間や視点(視界)といった鑑賞者の身体性をも入れ子の構造に取り込むかのように思えます。

2008年に京都嵯峨芸術大学短期大学部を卒業した松延総司(まつのべ・そうし/1988年熊本県生まれ)は、日常で目にする「もの」に少しのアプローチを加えることで、その機能・法則・素材などの要素を顕在化させる作品を発表してきました。たとえば、石、輪ゴム、鼻歌、棚、落書きなどをモチーフを点と線という要素に分解することで、2次元と3次元の空間を入れ子の構造に接続させ、認識を往来させるかのような作品は、鑑賞者自身にそうした認識が生じることそのものへの興味を抱かせるとともに、普段は当たり前と認識しているものへの定義・再定義を促すかします。

本展は「もの・空間・光・色」など、私たちが当たり前として認識している領域に丁寧な観察の眼差しを向け、そこに見定めた性質を手がかりにキッチュな、あるいはミニマルなアプローチによるインスタレーションを得意とする2名の作家によるものです。それぞれの作品が内包する「入れ子」の関係は、さらに「内と外」といった関係性において複雑に入り組んだ状態で空間に固定されます。その空間は鑑賞者という移動する身体を招き入れることで、さらに多様な視点を生じさせ、複雑さはより際立つものになるかもしれません。しかし、その複雑さはまた、私たちがある視点、ある認識の位置から視座した時、とてもシンプルな様相として捉えることもできるかもしれません。

本展において、観察と発見、定義と再定義、生成と分解などの様々な認識(イメージ)が、私たちの内に時に激しく、時にゆっくりと瞬くような体験をしていただければ幸いです。



本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 FLASH MATTER

出展作家 玉山拓郎 TAMAYAMA Takuro <http://takurtam.wixsite.com/tamyam>

松延総司 MATSUNOBE Soshi <http://matsunobe.net>

会期 2019年3月1日[金] — 3月17日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

主催 ギャラリー・パルク

料金 無料

会場 Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

アクセス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。
室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com

「FLASH MATTER」 フラッシュマター

玉山拓郎

松延総司

光や影を触れることができる立体物として目の前に引きずり出すこと、それが私と玉山に共通する試みである。

光や影は、「空想」の中にある具象的なイメージ(例えば夢)として現れるかもしれないし、

日常の中にある抽象的な「空間」(例えば穴)として現れるかもかもしれない。

「空(スペース)」があるところには光か影がある。光か影があるところにはスペースがある。

私も玉山も空間に興味を持ち、インスタレーション形式の作品を得意としている。

この展覧会の最初のアイデアは、一つの展示室に二つのインスタレーションを入れ子状に配置することであった。

私が作る、人気のない荒涼としたインスタレーションを外側に、玉山の「部屋」のような構造を持つイメージ豊かなインスタレーションをその内側に、といった具合である。

外の空間を指向する作品と、内の空間を指向する作品ならば、一つの展示空間に共存できるのではないか…。

ここで考えていたことは二次元平面上での「住み分け」のアイデアであった。

しかし私たちの描くドローイングをしてみれば、私たちが考える「空間」は、私たちを取り囲むものだけではないことに気付く。

大きさも素材も決定されないまま、アイソメトリック図やコラージュによって描かれるそれは、

脳内からプロジェクションされるようにして描かれた、触れることができる空間＝「四次元立体」の設計図である。

四次元立体の影(切断面)は三次元の立体とされる。三次元の立体であっても、それが「影」ならば、ぶつからずに重なることができる。

そうしたときに、初めの「住み分け」のアイデアは、実は「影の重ね合わせ」であったことに気付く。

私は4次元は自分の外側にあると考える。玉山はどう考えるだろうか。

スクリーンの上に光や影が自由に現れ重なるように、ギャラリーパルクは作品の無数の観測位置を持つだろう。

それがどの方向から、どれぐらいの速さや大きさで、どのような色であるかはまだ不明である。

テキスト: 松延総司

玉山拓郎

TAMAYAMA Takuro

<http://takurtam.wixsite.com/tamyam>

CV

- 1990年 岐阜県生まれ、埼玉県在住
- 2013年 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻 卒業
- 2015年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野 修了

個展

- 2018年 A Night Meal, Slight Fears (Little barrel / 東京)
Dirty Palace (CALM&PUNK GALLERY / 東京)
- 2017年 Pole Ball's Landing Life (Château 2F / 東京)
Pole Ball's Landing Life (愛知県立芸術大学サテライトギャラリー / 愛知)
- 2015年 I WANT TO TELL YOU HOW MUCH I LOVE (switch point / 東京)
- 2014年 the painting of the painter painting a painting (実家JIKKA / 東京)
Watering (Alainistheonlyone / 東京)
SURFER, DOG, ETCETERA (Art space Kaikas' / 神奈川)
- 2013年 IT MAY BE THIRTY THOUSAND YEARS AGO (gallery noivoi / 愛知)
- 2012年 TEMPTATION OF DEVICE / IDEA HAS DREAM / PAINTING (愛知県立芸術大学大学内学生会館2階 / 愛知)

グループ展

- 2018年 She saw The C, though (See Saw gallery + hibit / 愛知)
- 2017年 How about Polynesian? (TALION GALLERY / 東京)
- 2016年 パノラマ庭園 -動的生態系にするす- プレイベント (MAT Nagoya / 愛知)
パノラマ庭園 -動的生態系にするす- (MAT Nagoya / 愛知)
ざっぼろアートステージ2016 ARTSTREET -それぞれの時間- (札幌駅前通地下広場 / 札幌)
Ride on the Dolphin's Back Stand on the Dolphin's Back (mime / 東京)
- 2015年 第63回 / 東京) 芸術大学 卒業・修了作品展 (東京藝術大学 / 東京)
ART AWORD TOKYO MARUNOUCHI 2015 (丸ビル / 東京)
SPVI / II (ターナーギャラリー / 東京)
TERATOTERA FESTIVAL 2015 / SPROUT (三鷹駅周辺 / 東京)
- 2014年 卒業・修了制作優秀作品展 (愛知県立芸術大学芸術資料館 / 愛知)
Remote Wall (上野公園内「大仏山」 / 東京)
Minokamo Annual 2014 (美濃加茂文化の家敷地内野外 / 岐阜)
SPORTS (東京藝術大学学生会館2階展示室 / 東京)
SPVI (ターナーギャラリー / 東京)
- 2013年 Woodland Gallery 2013 (美濃加茂文化の家敷地内野外 / 岐阜)
Draw the World -世界を描く- (アートラボあいち / 愛知)
CURRENT / UNDERCURRENT (/ 東京) 芸術大学学生会館2階展示室 / 東京)
- 2012年 デイドリームはヒッチハイクで / HICHHIKE IS OUR DAYDREAM (名古屋市市政資料館 / 愛知)
Woodland Gallery 2012 (美濃加茂文化の家敷地内野外 / 岐阜)
460人展 (市民ギャラリー矢田 / 愛知)

賞歴

- 2015年 ART AWORD TOKYO MARUNOUCHI 2015 後藤繁雄賞(審査員賞)
- 2013年 愛知県立芸術大学平成24年度卒業制作最優秀作品賞



以上の画像いずれも
《Dirty Palace》 2018 サイズ可変
布(ジョーゼット)、蛍光灯、カラーフィルター、鏡、木材、真鍮、ウィッグ、食品サンプル、皿、コンクリート、歯ブラシ、モニター、シーリングライト、ビデオ(32分33秒)
撮影:新居上実 Takemitsu Nii

松延総司

MATSUNOBE Soshi

<http://matsunobe.net>

ステートメント

作品を通し、穴(0次元の点)や裂目(1次元の線)のような、凹み、影、虚無、空白を表す概念を、形あるものとして2次元、3次元の空間に表出させることを試みている。独自の視点で選ばれる石、輪ゴム、鼻歌、棚、落書きなどの日常の中にあるモチーフは、直接的に点・線の形状を表していると同時に、意図せぬところに様々な形態で発生／存在するような「点・線」の特性さえも捉えようとしている。

CV

個展

- 2018年 scribbles between spaces (SOX / ドイツ)
ねじれたライブラリールーム (熊本市現代美術館 / 熊本)
- 2016年 Knit the Knot (HAGIWARA PROJECTS / 東京)
- 2014年 Still life transparent objects (HAGIWARA PROJECTS / 東京)
- 2013年 Twisted Rubber Band / Humming (Gallery PARC / 京都)
- 棚 | SHELVES (LABORATORY / 京都)
- 2012年 SCHEMA, Kyoto.Köln (Schilling Arkitekten x Super Window Project / ドイツ)
- 2010年 Nissed (ART OSAKA 堂島ホテル / 大阪)
- Direction of Materials (Super Window Project™ & Gallery / 京都)
- 2009年 Op (ギャラリー射手座 / 京都)
- Nissed"ギャラリー射手座 / 京都)

グループ展

- 2018年 パーティション (京都市立芸術大学 Gallery @KCUA / 京都)
- Invisible Strings in Spring (Devening Projects / アメリカ)
- Pictures (HAGIWARA PROJECTS / 東京)
- Pehu 03 (ヘフ / 大阪)
- 2017年 Floating Urban Slime / Sublime (アートギャラリーミヤウチ / 広島)
- Solid State Logic (Find Craft & Works / 京都)
- 2015年 控えめな抽象 (Maki Fine Arts / 東京)
- Abstract Jungle (GALERIE DE MULTIPLES / フランス)
- Unehchte Landschaft (Curated by Gerrit Gohlke, Wilhelm Schürmann)
- Brandenburgischer Kunstverein / ドイツ)
- 2014年 DAIBURU ART (中之島ダイビル / 大阪)
- NIPPON NOW, Junge japanische Kunst und das Rheinland (E.ON Gallery / ドイツ)
- COVERD TOKYO: Hikarie, 2014 (渋谷ヒカリエ8 CUBE / 東京)
- TAMAVIVANT II 2014 (多摩美術大学 / パルテノン多摩 / 東京)
- line (HAGIWARA PROJECTS / 東京)
- 2013年 : No Subtitle (HAGIWARA PROJECTS / 東京)
- ORNAMENTUM LIBITUM (GLASS BOX / フランス)
- はならあと (田村薬草園 / 奈良)
- 無限の教え方 (KUNST ARZT / 京都)
- Géométrie Variable (DOMAINE LES CRAYERES / フランス)
- ANT! FOTO (Jacobihaus, Düsseldorf, Germany)
- 2012年 はならあと (田村薬草園 / 奈良)
- 竹田アートカルチャー (竹田市 / 大分)
- VERLANGSAMTE PERFORMANCE (Curated by Wilhelm Schürmann VAN HORN / ドイツ)
- OPEKTA international (BBK / ドイツ)
- 2011年 Art-O-Rama (ACDC x Super Window Project, Marseille, France)
- DROP ME! (nitehi works / 神奈川)
- KOBE Biennale 2011 (元町商店街 / 兵庫)
- MATSUNOBE / SUZUKI / TANAKA, UNE FENETRE JAPONAISE (GALERIE DE MULTIPLES / フランス)
- A Conversation With Mathieu Mercier, Takaaki Izumi, Yuki Kimura, Soshi Matsunobe, Kaz Oshiro, Koki Tanaka About

Abstract Objects (MUZZ x Super Window Project / 京都)

- 岡本太郎現代芸術賞 (岡本太郎美術館 / 神奈川)
- 2010年 Emerging Asian Artists, Art Guwangju (KDJ コンベンションセンター / 韓国)
- 2008年 one room'08 (京都嵯峨芸術大学 / 京都)
- 2007年 桐生再演13 (桐生市 / 群馬)

パフォーマンス

- 2017年 #4OCT17WED, selected by ナイスショップスー (外 / 京都)
- Humming, Yohei Yamakado + Soshi Matsunobe (外 / 京都)
- 2014年 Z.I.M.E (National Opera, New Hall / ラトビア)
- Humming Live Shuffle (NOASS / ラトビア)
- SCHEMA II TANZ (QUARTIER AM HAFEN / ドイツ)

コミッションワーク

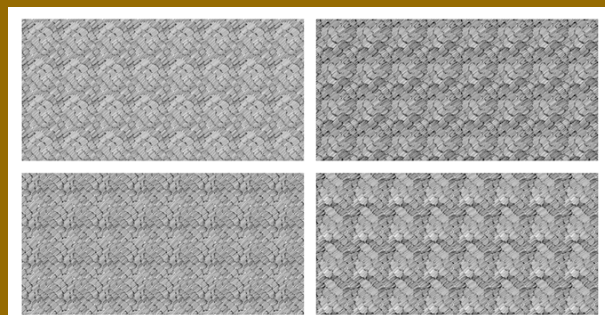
- 2016年 やすりの部屋 (APartment / 大阪)
- 2012年 Knot (Graffiti) (元町商店街 / 兵庫)



(Twisted Rubber Band)
2012- サイズ可変 輪ゴム



(Hollow)
2014 サイズ可変 デジタルデータ



(Gray chart(POD))
2019 サイズ可変 デジタルデータ